

U5章 形容詞による名詞修飾

ここで扱うのは形容詞による典型的な名詞修飾です。

名詞修飾については U3章、特に(3b), (3c), (4), (5b)も参照してください。

形容詞で名詞を修飾する場合について次の順序で説明します。

U5.1 形容詞による名詞修飾の形式 (52)

形容詞による典型的な名詞修飾を2つの場合に分けて説明します。

(1) 単主体形容詞の場合 (52)

主体が1つの場合の形容詞による修飾について説明します。

単主(1) 主体のみの場合 (52)

単主(2) 客体のある場合……に／より／から／まで格 (52)

(2) 複主体形容詞の場合 (54)

主体が複数ある場合の形容詞による修飾について説明します。

複主(1) 本属複主体 (54)

複主(2) 因果複主体 (55)

複主(3) 感覚複主体 (56)

複主(4) 時場複主体 (56)

複主(5) 数量複主体 (58)

◎修飾された実体の格の情報は消える (58)

U5.2 形容詞で修飾できる主体 (59)

(1) 主体の様態を表す形容詞は主体を修飾することができる (59)

(2) 主体の様態を表さない形容詞は主体を修飾することができない (60)

(3) 「多い・少ない」は「ある場」か「ある時」の中での物事の数量の多寡を意味する (60)

U5.1 形容詞による名詞修飾の形式

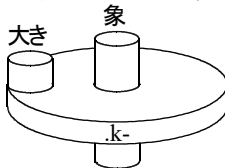
A16章も参照してください。

- ★ 形容詞による典型的な名詞修飾を見ます。これ以外の修飾については「U3章 形容詞を使う」の(3b), (3c), (4), (5b)を参考にしてください。
- ★ 形容詞による名詞修飾では、描写詞 -i を使用します。omosiro.k-i 話
- ★ このとき、現代語では形容詞の k は発音しません。
omosiro.k-i 話 (おもしろい話)
- ★ (1)単主体形容詞と、(2)複主体形容詞の場合に分けて考えます。

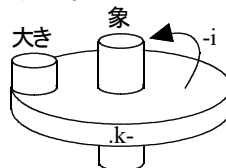
(1) 単主体形容詞の場合

単主(1) 主体のみの場合

「象は大きい」という構造は下左図のようになっています。このとき、主体(象)を属性(ooki.k-)で修飾することができます(下右図)。



図U5-1 象は大きい



図U5-2 大きい象 (ooki.k-i)

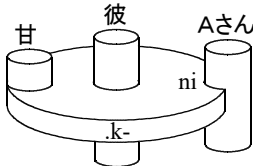
単主(2) 客体のある場合

(ni格, yori格, kara格, <made格>の場合を例示)

に格客体

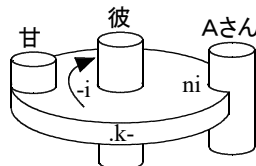
「彼はAさんに甘い」という例では、客体は ni 格 にあります。

この構造には主体「彼」と客体「Aさん」の2つの実体(名詞)があるので、修飾は2通りになります(①②)。



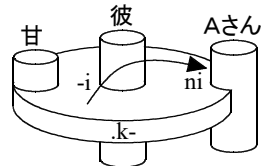
図U5-3 彼はAさんに甘い

①[主体(彼)を修飾]



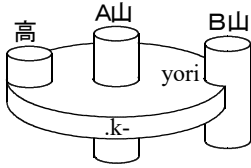
図U5-4 Aさんに甘い彼

②[客体(Aさん)を修飾]



図U5-5 彼が甘いAさん

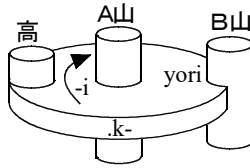
より格客体 「A山はB山より高い」の例では、客体は yori 格 にあります。



図U5-6 A山はB山より高い

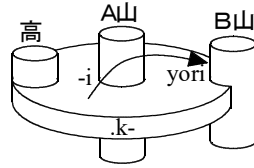
この場合でも2通りの修飾があるはずですが①②, 意味不明になるので客体を修飾することはありません②「A山が高いB山」)。あえて客体を修飾する場合には形容詞の前に yori をつけます②「?A山がより高いB山」)。

①[主体(A山)を修飾]



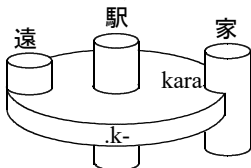
図U5-7 B山より高いA山

②[客体(B山)を修飾]



図U5-8 ?A山が<より>高いB山

から格客体 「駅は家から遠い」という例では、客体は kara 格 にあります。

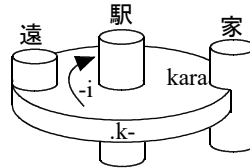


図U5-9 駅は家から遠い

この場合、2通りの修飾が可能です①②)。また、made 格, kara 格 の2つの客体がある場合もあります③)。

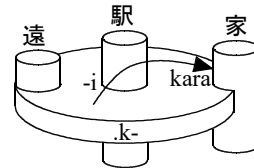
「家から遠い駅」は2つの異なる構造から描写される可能性があります①⑤)。

①[主体(駅)を修飾]



図U5-10 家から遠い駅

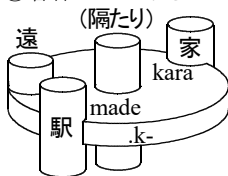
②[客体(家)を修飾]



図U5-11 駅が遠い家

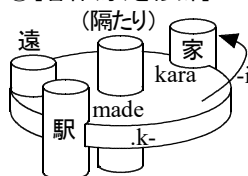
客体が2つある場合 は、主体が表現されないこともあります③④⑤)。

③客体が2つある



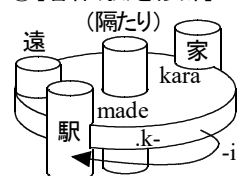
図U5-12 家から駅まで遠い

④[客体(家)を修飾]



図U5-13 駅まで遠い家

⑤[客体(駅)を修飾]



図U5-14 家から遠い駅

(2) 複主体形容詞の場合

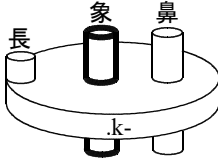
5種類の複主体の場合を考えます。(5種類についてはU4章p.44参照。)

複主(1) 本属複主体 (本書p.44参照)

「象は鼻が長い」の構造には本主体(象)と属性主体(鼻)があります。

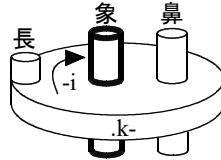
両方を修飾することができます(①②)。

「の」での修飾(ノつなぎ)を伴うことも可能です(③④)。



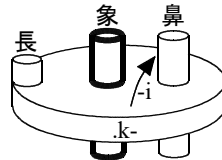
図U5-15 象は鼻が長い

①[本主体(象)を修飾]



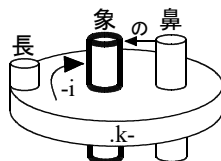
図U5-16 鼻が長い象

②[属性主体(鼻)を修飾]



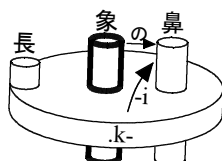
図U5-17 象が長い鼻

③[ノつなぎを①に併用]



図U5-18 鼻の長い象

④[ノつなぎを②に併用]



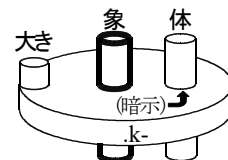
図U5-19 象の長い鼻

属性主体を言わなくてよい形容詞

「大きい」は、属性主体が「体」であることを暗示していますので、上の①③の場合、属性主体が「鼻」でなく「体」であるときは、「体が大きい象」(①)とか「体の大きい象」(③)と言う必要はなく、「大きい象」と言うだけで済みます。(下図参照)

形容詞が属性主体が何であることを暗示している場合には、その属性主体を表現する必要はありません。(U4章 p.45参照)

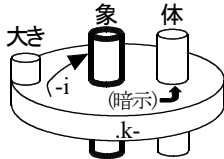
他の例: (色が)白い車, (容貌が)美しい由紀さん, (値段が)安い卵 ……これらの()内は表現する必要はありません。



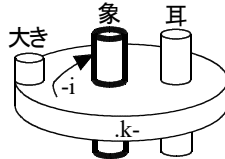
図U5-20 「大きい」は属性主体「体」を暗示

属性主体を言わなければならない形容詞

「大きい」という形容詞は、属性主体が「体(全体)」であることを暗示していますので、「象は大きい」「大きい象」と言うことができます。しかし、部分 (例:「耳」) が「大きい」と言うためには、その部分を属性主体としてはっきり表現しなければなりません。(「象は耳が大きい」「耳が大きい象」のように。)



図U5-21 (体が)大きい象



図U5-22 耳が大きい象

このように、その形容詞の暗示する属性主体(体全体)とは異なる属性主体(耳)を使用するときは、その属性主体を明示する必要があります。

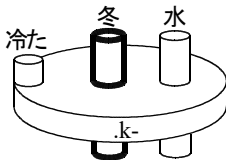
複主(2) 因果複主体

(本書p.46参照)

「冬は水が冷たい」の構造には原因主体(冬)と結果主体(水)があります。

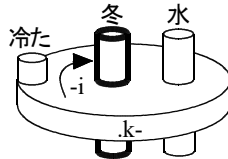
両方を修飾することができます(①②)。

「の」での修飾(ノつなぎ)を伴うことも可能です(③④)。



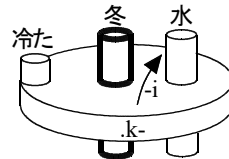
図U5-23 冬は水が冷たい

①[原因主体(冬)を修飾]



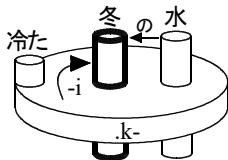
図U5-24 水が冷たい冬

②[結果主体(水)を修飾]



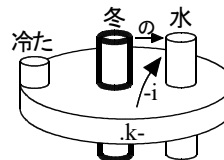
図U5-25 冬が冷たい水

③[ノつなぎを①に併用]



図U5-26 水の冷たい冬

④[ノつなぎを②に併用]



図U5-27 冬の冷たい水

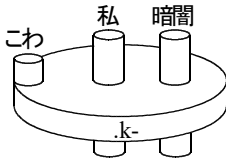
問U5-1 複主体形容詞でも、属性主体に対しては単主体形容詞ですか。

複主(3) 感覚複主体 (本書p.47参照)

「私は暗闇がこわい」の構造には感覚主体(私)と帯感主体(暗闇)があります。

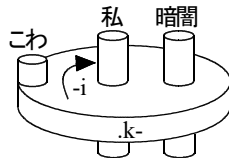
両方を修飾することができます(①②)。

「の」での修飾(ノつなぎ)を伴うことも可能です(③④)。



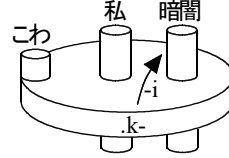
図U5-28 私は暗闇がこわい

①[感覚主体(私)を修飾]



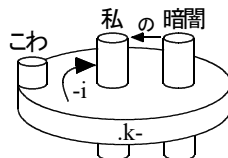
図U5-29 暗闇がこわい私

②[帯感主体(暗闇)を修飾]



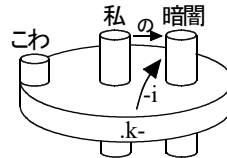
図U5-30 私がこわい暗闇

③[ノつなぎを①に併用]



図U5-31 暗闇のこわい私

④[ノつなぎを②に併用]



図U5-32 私のこわい暗闇

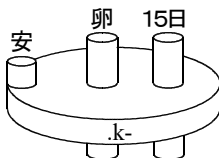
複主(4) 時場複主体 (本書p.48参照)

(4a) 時の複主体 (本書p.48参照)

「卵は15日が安い」の構造には主体(卵)と時の主体(15日)があります。

両方を修飾することができます(①②)。

「の」での修飾(ノつなぎ)を伴うことも可能です(③④)。



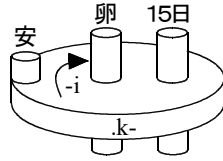
図U5-33 卵は15日が安い

問U5-2 「彼女は作法にうるさい」という構造において名詞修飾をしてください。

問U5-3 「特急は準急より速い」という構造において名詞修飾をしてください。

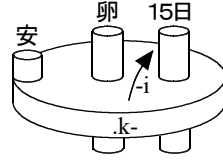
問U5-4 「私は恩師が懐かしい」という構造において名詞修飾をしてください。

①[主体(卵)を修飾]



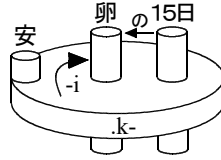
図U5-34 15日が安い卵

②[時の主体(15日)を修飾]



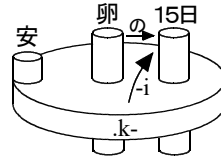
図U5-35 卵が安い15日

③[ノつなぎを①に併用]



図U5-36 15日の安い卵

④[ノつなぎを②に併用]



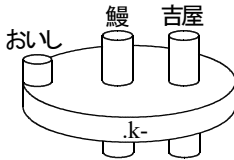
図U5-37 卵の安い15日

(4b) 場の複主体 (本書p.49参照)

「鰻は吉屋がおいしい」の構造には主体(鰻)と場の主体(吉屋)があります。

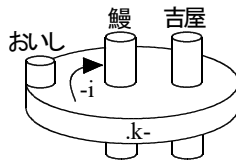
両方を修飾することができます(①②)。

「の」での修飾(ノつなぎ)を伴うことも可能です(③④)。



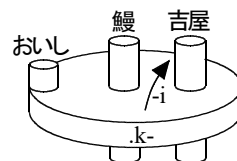
図U5-38 鰻は吉屋がおいしい

①[主体(鰻)を修飾]



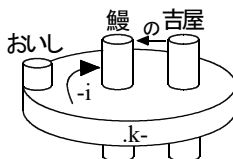
図U5-39 吉屋がおいしい鰻

②[場の主体(吉屋)を修飾]



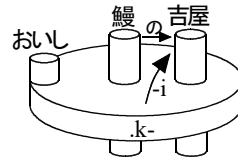
図U5-40 鰻がおいしい吉屋

③[ノつなぎを①に併用]



図U5-41 吉屋のおいしい鰻

④[ノつなぎを②に併用]



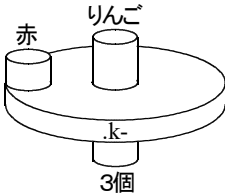
図U5-42 鰻のおいしい吉屋

複主(5) 数量複主体 (本書p.50参照)

「りんごが3個赤い」の構造には主体(りんご)と数量主体(3個)があります。

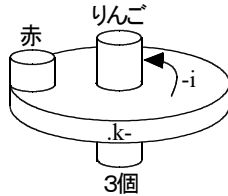
両方を修飾することができます(①②)。

「の」での修飾(ノつなぎ)を伴うことも可能です(③④)。



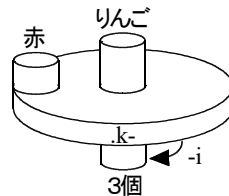
図U5-43 りんごが3個赤い

①[主体(りんご)を修飾]



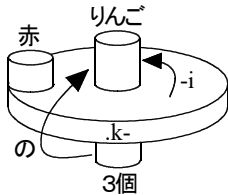
図U5-44 3個が赤いりんご

②[数量主体(3個)を修飾]



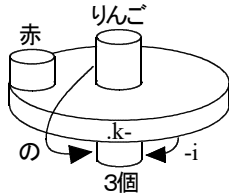
図U5-45 りんごが赤い3個

③[ノつなぎを①に併用]



図U5-46 3個の赤いりんご

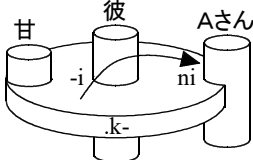
④[ノつなぎを②に併用]



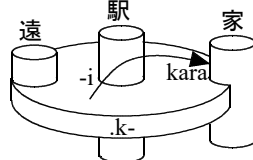
図U5-47 りんごの赤い3個

◎修飾された実体の格の情報は消える (A16.7参考)

下左図の「Aさん」は、「甘い」の「に格」に立っていますが、修飾されて「彼が甘いAさん」になると「に格」にあることの情報が消えます。このように、実体が修飾されると、その実体の立つ格が何格であるかは分からなくなります。下右図の「家」も修飾されると、「遠い」に対する格(kara)の情報が消えます。



図U5-48(5の再掲) 彼が甘いAさん

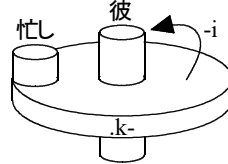


図U5-49(11の再掲) 駅が遠い家

U5.2 形容詞で修飾できる主体

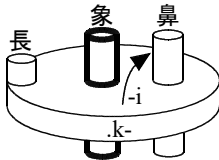
(1) 主体の様態を表す形容詞は主体を修飾することができる

- ① [単主体] 彼は忙しい → 忙しい彼

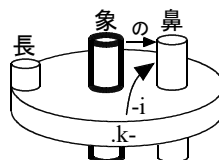


図U5-50 忙しい彼

- ② [複主体] 象は鼻が長い



図U5-51 長い鼻



図U5-52 象がの長い鼻

★複主体では、属性主体(鼻)はその属性(長い)に対する単主体であるために、属性は属性主体を修飾することができます。

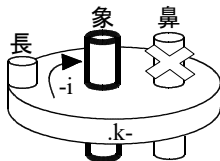
長い 鼻

象が 長い 鼻 (ふつうはノつなぎを使用……象がの 長い 鼻)

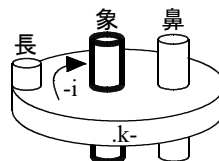
★本主体(象)を修飾する場合は、属性(長い)だけでは修飾できません(下左図)。属性主体(鼻)も一緒に描写する必要があります(下右図)。

? 長い 象

鼻が 長い 象



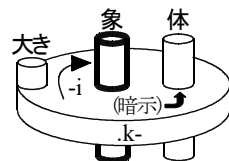
図U5-53 ?長い象



図U5-54 鼻が長い象

★ただし、属性主体が暗示されている場合、その属性主体は省略できます(右図)。

象は体が大きい → (体が)大きい象
「大きい」はふつう属性主体が「体・全体」であることを暗示していますから、「体が」を省略できます。(本書p.54参照)

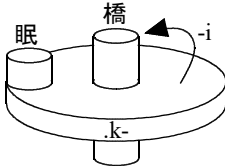


図U5-55 (体が)大きい象

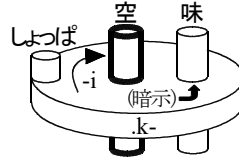
(2) 主体の様態を表さない形容詞は主体を修飾することができない (比喩は除く)

*橋は眠い → *眠い橋 (眠さは橋の様態ではありません。)

*空は(味が)しょっぱい → *(味が)しょっぱい空 (空に味はありません。)



図U5-56 *眠い橋



図U5-57 *(味が)しょっぱい空

(3) 「多い・少ない」は「ある場」か「ある時」の中での事物の数量の多寡を意味する

「多い・少ない」で修飾するには、その事象の成立する「場か時の情報」が必要です。

① [単主体での多い・少ない]

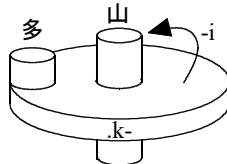
(コラムU5②参照)

★場の情報も時の情報もない場合

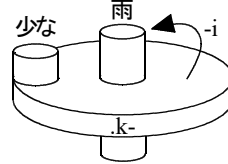
ふつうは主体を修飾できません。

山が多い → ? 多い山

雨が少ない → ? 少ない雨



図U5-58 ? 多い山

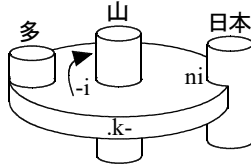


図U5-59 ? 少ない雨

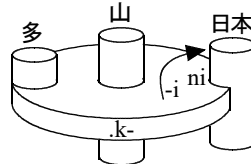
★場か時の情報がある場合

その情報を明示することによって主体やその情報を修飾できます。

(場) 日本には山が多い → 日本に多い山, 山が多い日本

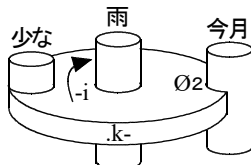


図U5-60 日本に多い山

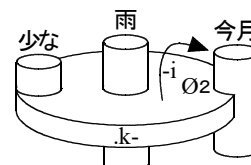


図U5-61 山が多い日本

(時) 今月02は雨が少ない → 今月02少ない雨, 雨が少ない今月



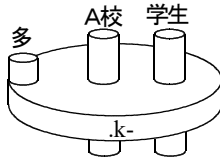
図U5-62 今月02少ない雨



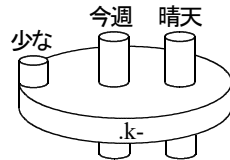
図U5-63 雨が少な今月

② [複主体での<多い・少ない>]

複主体の例……本主体(A校, 今週)が場か時の情報になっています。

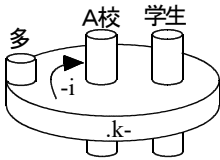


図U5-64 A校の1は学生が多い

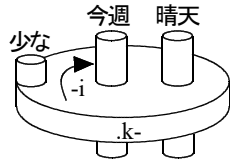


図U5-65 今週の1は晴天が少ない

★ふつうは属性主体と属性のセット(学生が 多い)で本主体を修飾します。

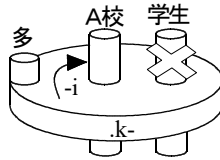


図U5-66 学生が多い A校

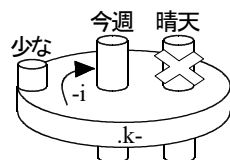


図U5-67 晴天が少ない 今週

★「多い・少ない」の属性主体は暗示なしのため属性の本主体修飾は不可。

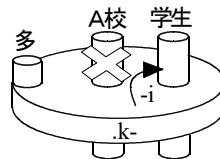


図U5-68 *多いA校

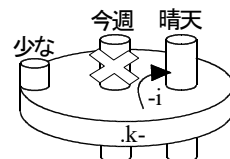


図U5-69 *少ない今週

★本主体(A校, 今週)は場か時の情報になっているので省略できません。

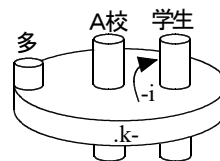


図U5-70 *多い学生

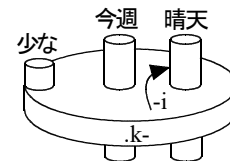


図U5-71 *少ない晴天

★ふつうは事物(学生, 晴天)を修飾しません。必要があれば可能です。



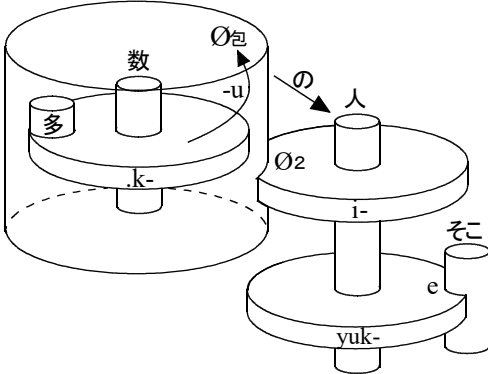
図U5-72 ? A校が多い学生



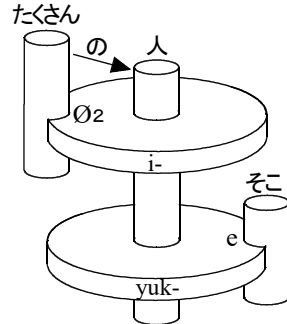
図U5-73 ? 今週が少ない晴天

③ ×多い(人)→○多くの(人)

「*多い人」と言わずに「多くの人」と言います。この「多くの」は「多く存在する」の構造を持っています。「たくさん」に似ています。



図U5-74 (数)多くの人がそこへ行く



図U5-75 たくさんの人がそこへ行く

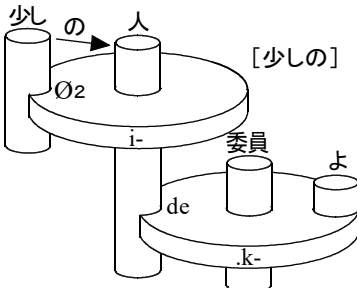
★上の図で見るように「多くの人，たくさんの人」は「多くの2いる人，たくさん2いる人」の構造を持っています。同様に「多くの山，たくさん2ある山」は「多くの2ある山，たくさん2ある山」の構造を持っています。

★つまり，「多くの，たくさん」の語は修飾される主体がすでに「存在する」という属性を持っています。「多くの山」は「多く存在する山」です。

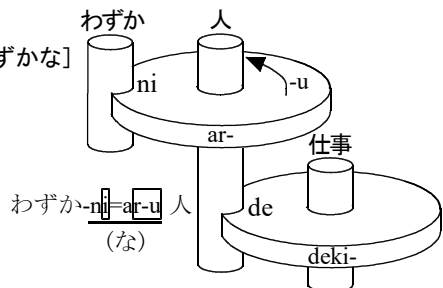
×「少ない人」→×「少なくの人」

「多くの人／山」とは言いますが，「*少なくの人／山」とは言いません。これは，「少なくの」が5拍であるのに対して，同じ意味の「少しの，わずかな」が4拍と短いために，後者が好んで使われるからです。

※「少なくの」の構造は「多くの」(上の図U5-74)と同じです。



図U5-76 委員の1は少しの人でよい



図U5-77 仕事の1はわずかな人でできる

問U5-5 「大きい台風」とは言えるのに，「多い台風」と言えないのはなぜですか。